

## 歩ける人は歩いて地域に貢献してください

熊本県内の自治体で、新しいポイント制度の実験をはじめた。広い意味で地域通貨の一種。通貨の単位はチーター。キャラクターは知人につくってもらった。目的は、ボランティア活動団体支援、メタボ対策、商店街振興。仕組みは次の通り。



1. 歩く人 万歩計をつけ、一日の歩数を記録し、1ヶ月分まとめて事務局に報告する。50～100人規模で実験協力者を集める。
2. 寄付者 地域内のお店（花屋、ケーキ屋、居酒屋、美容院など）から協賛金1000円を集める。10軒で10,000円になる。これが原資。（実験第一段階では、このお金は調査委託費から出す。2回目以降は、協賛金を集める。）
3. 支援先 地域内でボランティア活動をしている団体（読み聞かせ、パピーウォーカー、点字訳、音訳、地雷遺児奨学金、地域ネコなど）を3,4団体抽出（社協などの推薦による）。仮に、1）読み聞かせ（絵本購入資金）、2）音訳（録音テープ購入資金、3）地域ネコ（不妊去勢手術代）の3つを選んだとする。
4. 寄付率 歩く協力者は、1ヶ月分の合計歩数をポイントとして、そのポイントの何割をどの団体に寄付するかを申告する。例えば、1）～3）に1/3ずつ、1）に50%、2）に50%など。これにより、歩いた人全員分のポイントを支援先団体ごとに集計し、按分比を算出する。
5. 寄 付 寄付者から集めた10,000円を、上記の按分比で分け、寄付する。

実験協力者に聞いたところ、1日1万歩以上歩いている人も少なくない。そのため、歩数をそのままポイントにしたのでは数値が大きくなりすぎる。そこで、365歩=1チーターとして計算することにした。

ところで、いわゆるエコマネーの運営上の課題は、地域通貨を払う人（サービスしてもらう人）と受け取る人（サービスを提供する人）に偏りが生じ、地域通貨長者が生まれ、その人たちは貯まった地域通貨の使い道がなくて困る、というものである。その問題を解決する方策として、「チーター」の仕組みが使えないか考えた。各地のエコマネーの多くは、サービスの内容にかかわらず1時間の労働の対価として100クリンとか50キヨシといった地域通貨を支払う仕組みになっている。これを、チーターに換算する。1時間、時速4Kmで歩いたとして、歩幅を70cmと考えると、1時間に歩く歩数は  $4\text{ km} \div 0.7\text{ m} = 5,714$  歩。



$5,714\text{ 歩} \div 365\text{ 歩} = 15.7$ チーター。きりが良い数字として、1時間15チーターをレート(rate)とし、他の地域通貨をチーターに換算する。そして、応援したいボランティア活動団体に寄付してもらおう。こうすれば、「エコマネーなんてもらわなくても助け合いはするのに、かえって面倒臭い」という根本的問題も解消できるかもしれない。歩く人に「チーターメンバーズカード」を発行しお店で割引が受けられるようにしたり、歩く人の胴囲を計測してメタボ対策で保健施策と合体したり・・・、1,2,1,2 休まないで歩け、だ。